



強く押ししたり、水を多く入れたり、いろいろな飛ばし方を試していました。(みずでっぼうグループ)



紙皿を付けたら上手く浮かぶかな。(ふねグループ)

※他には、しゃわあグループ、さかなつりグループがありました。

③ まとめ(ふりかえり)

ふりかえりタイム

自分の頑張ったところと友達のおもちゃの楽しそうなところを見付けました。最後に、子供たちに次回の生活科でやりたいことを聞くと「友達のおもちゃを使って遊びたい。」という声が多かったので、次回は「みずまつり」をすることにしました。



<教職員による研究協議会から・・・>

- 導入で児童の思いを聞くことで本時の活動が明確になり、集中して活動に取り組むことができた。
- 自分のやっていることに夢中だった。教師があえてアドバイスをせずに見守ることで、児童が悩みながら自分で解決する場面がみられた。
- ふりかえりの発表では、友達の作品のいいところをたくさん見付けていた。自分のことに夢中だが、児童は友達の行動や作品も見ていた。
- ふりかえりタイムで「おもしろそう。」「やってみたい。」という声が多かった。
- 個の学びを大切にしていたが、全体で紹介する場面が展開であるとよかった。ふりかえりではなく、その場で児童の活動の良さや楽しさを伝えてあげればよかった。

<根本裕美先生による指導講評>

- ・児童は、丁寧に最後まで発言することができていました。
- ・自分の作業に没頭する時間があったので、他の児童とのかかわり合いが充実していました。
- ・かかわり合いを進めて行くためには授業環境が大事です。例えば、船を動かそうとしている児童のそばにうちわを置いてやり、うちわで扇ぎ風力で船を動かすことができるようにするなどの教師側の仕掛けがあるといいです。
- ・今回の授業で児童が夏をどのようにとらえたか、教師がしっかりとまとめておくことが大切です。そして、この単元は他の季節とつながる学習なので、夏の学習をいかして今後の秋冬につなげていくとよいと思います。